

# カナダのアンティゴニッシュ運動の思想と実践

## —— Social Pedagogy の視点からの考察 ——

藤 村 好 美

The Idea and Practice of the Antigonish Movement in Canada:  
From the Viewpoint of Social Pedagogy

Yoshimi FUJIMURA

### はじめに

筆者は、これまでの自らのアメリカ研究において、教育と社会福祉との接点ともいえる社会的教育 (Social Education あるいは Social Pedagogy) が、アメリカの抱える社会問題をいかにして解決することが可能であるかということを追求してきた。近年、その切り口として “Social Pedagogy” (ソーシャル・ペダゴジー) の理念に着目し、アメリカにおけるその思想と実践についての調査を行っている<sup>1</sup>。

ソーシャル・ペダゴジー (Social Pedagogy、以下 SP) とは、社会福祉と教育の分野にまたがる実践を表す概念であり、その起こりは19世紀中葉のドイツにおいて制度化された学校教育の代替的な教育モデルを示す “*sozial pädagogik*” にある。その後、SPの思想と実践は、ヨーロッパに広く影響を与え、ヨーロッパでは20世紀半ば以降、社会事業と社会的教育に関連する概念として広く浸透している<sup>2</sup>。

しかし、SPの理論は英語圏の諸国ではあまり発展を見ていない。ノルウェーのスタヴァンゲル大学のSPの教授であるポール・ステファンスは、イギリスを始め英語圏ではSPの研究は盛んでは無く、イギリスにおいてヨーロッパ大陸におけるSPに対する関心が高まってきたのはここ10年ほどのことである、としている<sup>3</sup>。彼によれば、イギリスにおけるSPの分野では、ロンドン大学トマス・コラム研究所のソーシャル・ペダゴジー学習センターが先駆的な役割を担っているおり、現在では、複数の大学においてSPの学士や修士の学位が提供されている。またアメリカでは、SP研究は、イギリスよりも一層遅れを取っており、唯一アリゾナ州立大学がソーシャル・カルチュラル・ペダゴジーの修士の学位を提供しているに過ぎない。

しかし、SPの概念の土壌を振り返ると、アメリカにもその理論と実践の系譜の中にSP概念への貢献者が多く存在する<sup>4</sup>。シュグレンスキーはSPの先駆者としてドイツのバウル・ナトルプとヘルマン・ノールの名前を挙げ、さらにSPへの貢献者として、アントン・マカレンコ、メアリ・P・フォレット、ジョン・デューイ、ジェイン・アダムズ、エデュアード・リンデマン、モーゼス・コーディ、パウロ・フレイレ、マイルズ・ホートンの名前を列挙している。すなわち北米におけるSPの理論と実践には、フレイレやホートンと共に、モーゼス・コーディとアンティゴニッシュ運動が深く関わっているのである。

本稿では、SPの思想と実践のルーツとして、カナダのアンティゴニッシュ運動に着目する。アンティゴニッシュ運動については、古くから多くの研究の蓄積があり、日本でも佐々木徹郎が、50年以上も前に、協同組合運動の視点から、その起源と思想、組織について紹介している<sup>5</sup>。しかし、アンティゴニッシュ運動の理論と実践は協同組合運動のみに示唆を与えるものではない。す

なわち、運動とその指導者であるモーゼス・コーディの思想には、Social Work, Youth and Adult Education, Community Development の三領域にまたがる SP の理論の息吹を読み取ることができるのである。SP の視点からアンティゴニッシュ運動を再評価することにより、フレイレやホートンの社会変革の成人教育との接点を見いだすきっかけとしたい。

## 1. アンティゴニッシュ運動とは

### (1) 概要

アンティゴニッシュ運動とは、1920年代から30年代にかけてカナダのノヴァ・スコシア州アンティゴニッシュの漁村を中心に展開した協同組合運動・成人教育運動であり、聖フランシス・ザビエル大学の大学拡張プログラムとして、モーゼス・コーディ神父らの指導のもとに、住民の組織化と学習が繰り広げられた。コーディの思想を継承するコーディ・インターナショナル・インスティテュートの専門司書を務めるアービング (Irving, Catherine) によれば、その概要は以下の通りである。

アンティゴニッシュ運動とは、20世紀の初頭にノヴァ・スコシア州北東部の住民が直面した貧困状況と抑圧された職場環境という問題を解決するために始まった運動である。聖フランシス・ザビエル大学 (St. Francis Xavier University、以下 StFX) の大学拡張部が、住民の生活に関わる多くの課題に関連した数百のスタディ・クラブ (学習サークル) を通してコミュニティ開発のプロセスを支援した。運動の哲学と実践の遺産は、StFX の大学拡張部、成人教育学科、コーディ・インターナショナル・インスティテュート (Coady International Institute、以下 CII) の三部門の活動に引き継がれている。この社会運動については、成人教育の方法やコミュニティ主導の経済発展実践の観点から、世界中で広く研究がなされてきた。またこの運動の理論と実践は、今日のアクション・リサーチに通じるものである。アクション・リサーチについては、1946年に社会心理学者のクルト・レヴィンがアクション・リサーチのパラダイムを提唱したが、アンティゴニッシュ運動はすでにその約20年前にグループ学習とコミュニティ活動により人々が自らの状況を検証し地域に最適な方法を用いて生活を向上するべく支援したのである。さらに、レヴィンが後に強調した(1)グループによる活動と(2)民主主義、という二つの要素がこの運動に含まれている<sup>6</sup>。

なお図1にアンティゴニッシュ (現在はタウン) の地図を示した。

### (2) 地域的特性

図1に見られるノヴァ・スコシア州、ニュー・ブランズウィック州、プリンス・エドワード島の三州は、一般に沿海諸州 (Maritime Provinces) と呼ばれている。佐々木は、アンティゴニッシュ運動の背景として、この地域の経済体制に注目し、以下の様に述べている。

この運動の背景として最も重要なことは、この運動が発生したノバ・スコシヤ (ママ) の経済体制である。生産物がほとんど輸出され、生産地と消費地が遠く離れているという、この地域の漁業構造は、そこに種々の中間搾取の存在を生み出してきた。また、カナダの工業化の過程において、沿海諸州は、第一次産業である農業や漁業の地域として特化し、その結果、この地域は、カナダにおける「後進国」として位置づけられ、経済発展の主導性を失った。アンティゴニッシュ (ママ) 運動は、このような経済的展開の過程に生じた、零細漁民の



図1 沿海諸州 (Maritime Provinces) とアンティゴニッシュの位置

[<http://www.rcinet.ca/en/2013/07/14/arts-culture-lifestyle-54-antigonish-n-s-highland-games-150th-year/>, Retrieved October 1, 2016]

自営組織とみることができる<sup>7</sup>。

### (3) 歴史的背景

アンティゴニッシュ運動の背景には、19世紀末から20世紀初頭にかけて、ノヴァ・スコシア州の農漁村を襲った深刻な貧困と失業があり、当時、多くの若者は職を求めて村を去り、国境を越えアメリカ北部の都市へと向かったという。またこのような村の経済的困窮に対して、政府はほとんど無策であった。以下、アーヴィンに依拠し、当時の社会的背景と運動の歴史的展開について整理しよう<sup>8</sup>。

#### ① 聖フランシス・ザビエル大学 (StFX) と大学拡張 (University Extension) の構想

StFXは1853年に小さな地方大学として創設された。創立当時は、ローマ・カトリックの聖職者によって大学の運営が行われていたが、当時のノヴァ・スコシア州の農漁村は、貧困と不公正な労働慣行、村外への人口流出に直面しており、聖職者たちはその状況を目の当たりにし、彼らは、地域住民が直面する封建的ともいえる絶望的な状況に対して地域住民が彼らの生活を自らコントロールするためには、教育が重要であることを痛感したのである。

村の開発のための大学拡張<sup>9</sup>の構想を最初に提唱したのは、マイケル・ギリス神父 (1883-1970) であった。彼はケープ・ブルトン教区の主任司祭で、持続可能な農村を維持するために農業の近代化と教育に尽力した。また彼は、社会正義の実現のために協会が積極的な役割を果たすべきだと主張し、ニューヨークのショットーカやグルントヴィのフォーク・スクール・モデルに代表される当時の社会的福音運動を実践したのである。図2はギリスの写真であるが、彼は二つの大戦の従軍牧師でもあった。



図2 マイケル・ギリス神父<sup>10</sup>

## ②ジェームズ・J・トンプキンズ神父による大学拡張構想と大学拡張部の設立

第一次世界大戦後の社会の混乱の中、StFXの教授であったジェームズ・J・トンプキン神父(1870-1953)は、教育による民主化こそが重要であると信じていた。彼は、英国のWEAやデンマークのフォーク・ハイスクールによる民衆教育の方法に触発され、その著書*Knowledge for the People*(『民衆のための知』)の中で、StFXが一部の限られた階層のためだけではなく民衆のための大学へと変革を遂げることを主張した。彼はまた、英国ロッチデールの協同組合の思想とケベックのアルフォンス・デジャルダンの提唱する”caisse populaires”(信用組合)の構想に注目し、民主的な経済の確立を目指すそれらの運動に果たす教育の重要性に気づいていた。StFXはトンプキンズの主張に応え、1928年に大学拡張部を設立する<sup>11</sup>。アンティゴニッシュ運動の始まりである。



図3 ジェームズ・トンプキンズ神父(中央)<sup>12</sup>

### (4) モーゼス・コーディ神父の着任とアンティゴニッシュ運動の始まり<sup>13</sup>

上述の通り、1928年、StFXは大学拡張部を設置し、そのディレクターにモーゼス・コーディ神父(1882-1959)を任命する。コーディはトンプキンズの二重いとこで、1882年1月3日、ノヴァ・スコシア州ケープ・ブレトン島のマーガリーで生まれる。幼少時は学問よりも家の農作業を手伝うなどの仕事に従事していたが、成長するにつれ学問への関心が高まったと自ら述べている。1900～1901年、ノヴァ・スコシア州トルーロの教育大学で学び、卒業後の2年間マーガリー民衆高等学校で教師を務める。1903年、アンティゴニッシュのStFXに入学し、1905年文学士の学位を取得し同大を卒業する。卒業後はカトリックの聖職につき、ローマのUrban College of the Propaganda Fideに派遣され、D.D(神学博士)とPh.Dの2つの学位を取得し、1910年に司祭に任命される。帰国後、アンティゴニッシュに戻りStFXの高校と大学の教員となるが、1914年に再びワシントンD.C.のアメリカ・カトリック大学に派遣され、大学院で1年間教育学を修める。カナダに帰国後は、StFX高校の校長(1916-1925)、教育学教授(1916-1928)を経て、1928年大学拡張部の初代ディレクター

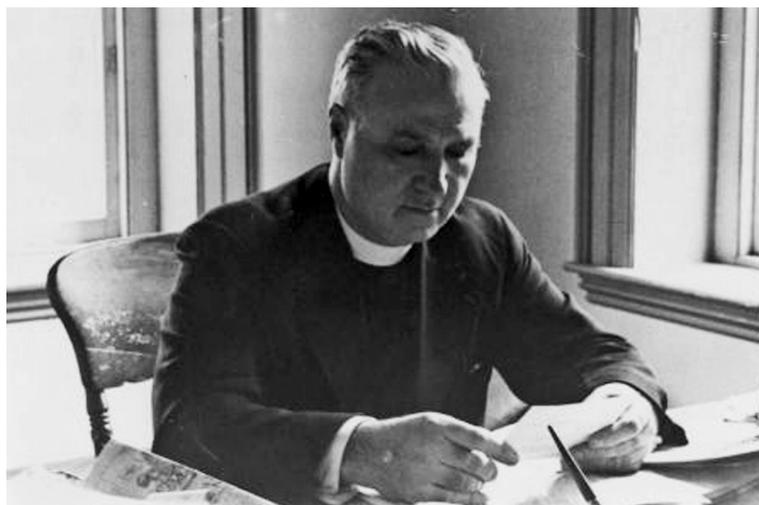


図4 モーゼス・コーディ神父<sup>14</sup>

となったのである。

ここまで彼の略歴を読むと、コーディはカトリックの聖職者として、上の求めに応じて行動しただけのような感を受ける。しかしこの間、彼は積極的に大学の外に出てアンティゴニッシュの貧困に立ち向かう運動を繰り広げていたのである。コーディ・インターナショナル・インスティテュートの付属図書館のウェブサイトによれば、彼の地域での実践は次のように、アンティゴニッシュ運動へとつながっていく。

コーディの大学の外での実践は、1921年、州教員組織（Provincial Educational Association、以下 PEA）との関わりから始まる。それまでは、教員は給与や労働条件を向上させる術をもたなかった。トルーロで、コーディは教員組織が組合を結成し、職業オーガナイザーを任命し、教員向けの雑誌を刊行することの必要性を説いた。教員たちは彼に同意し、コーディをオーガナイザーに任命した。1923年には、ノヴァ・スコシア州の教員の三分の一が組合員となった。彼は教員用の冊子を刊行し、編集者として教員の給与増額や給与以外の恩典を求めてロビー活動を展開した。

コーディは1924年に組合を離れるが、当時の経済状況は最悪だった。ケープ・ブレトンの炭坑では労働争議があり、不況のために多くの労働者が流出していった。このような状況はアンティゴニッシュ教区に大きな影響を及ぼし、社会的関心の強い神父たちは、

このような問題に対応する方法を模索していた。

この頃、コーディはマーガリーに民衆学校を創る構想を抱いていた。そして、後のアンティゴニッシュ運動の成人教育モデルとなるような枠組みを考案した。これはコーディにとって、「世界で、そして若者のフォーマルな教育の分野において進歩を遂げるための科学的な方法は、成人への啓蒙と教育にある」という自らの信条を実現に移すまたとない機会であった。彼は二つの問いを問うた。「この地域で生活するためには人々は何をすべきであろうか。また、人々はその生活の手段を学ぶことをどのように考えるだろうか。」人々がたえず問いかけ、討論し、教え、学ぶことを通して、協同で集団行動をおこす「るつぼ」としてスタディ・クラブ（学習サークル）を活用するというアンティゴニッシュ運動の方法の基本がここに生まれたのである<sup>15</sup>。

このように、コーディの地域との関わりがあって、アンティゴニッシュ運動の原型が形成された。彼は当初はアンティゴニッシュ運動を StFX の大学拡張プログラムと関連づけてはいなかったが、前述の通り、トンプキンの構想により StFX に大学拡張部を創る構想が並行して進行していた。そして、大学側も当時の社会的課題を解決するために尽力するのは大学の（すなわちキリスト者の）使命であるという社会的福音の思想に動かされ、大学拡張部において地域の課題解決をめざすというアンティゴニッシュ運動へと収れんしていったのである。

佐々木は、社会教育部（ママ）<sup>16</sup>の基本目的は「東部ノバ・スコシヤ（ママ）の住民の生活水準向上のため、成人教育によって農漁民の組織化を行う」<sup>17</sup> ことであると述べ、この基本目的についてのコーディの理解を彼の言葉をもとに、次のように紹介している。

1. 沿海諸州の漁業は、大きい天然の富をもっている。これを活用すれば、カナダ国民の大部分が、高度の公民としての資格で活動できるような生活を維持することができる。
2. 過去において、このような可能性をもつ産業である漁業は、封建的にして科学性を欠いた

やり方で行われてきた。われわれの仕事は、この封建制を除去して、漁民に対し、その責務を果す場合、科学的にもものを見るのが大切であることを自覚させることにある。この科学的やり方は、漁業のあらゆる部門、すなわち、生産、加工、港湾施設の運営管理および流通に適用されるものである。

3. このことは、長期にわたる成人教育のみによって達成できるのである。
4. これは緩慢な過程となることは必然である。一夜にして達成できるものではない(略)。
5. 魚の加工とか流通は、この運動の重要な面ではあるが、これは全体計画の一部でしかありえない。沿海諸州の漁業の再建は、魚を市場に送ることだけによって判断できるものではなく、漁村の住民、家族の生活がどれだけ向上したかということによって決められるのである。
6. われわれの究極の目標は、次のようなものである。すなわち、協同組合組織によって漁民をして、真の独立自営者であり、運営者たらしめて、生産手段を確実に所有し、例えば、カナダ、米国、デンマーク等の農業自営者に比肩できる地位を、現実に獲得させることである<sup>18</sup>。

## 2. アンティゴニッシュ運動の特徴—The Antigonish Way—

### (1) コミュニティ開発

アンティゴニッシュ運動の最大の特徴は、大学拡張部が大学の外に出て地域住民にアウトリーチの教育活動を行ったことである。すなわち、大学拡張部のフィールドワーカーが地域にはいり、スタディ・クラブの学習を通して、住民が地域課題について知り、その課題解決のために、代替案や新たなモデルを模索し、その結果について予測しふりかえる。アーヴィンはこの方法について「学習、行動、省察の学びのサイクル」<sup>19</sup>であるとまとめている。

またハリー・ジョンソンはアンティゴニッシュ運動の成人教育プログラムの特徴を次の6点に整理したが、後にコーディもこれに同意を表明している<sup>20</sup>。

#### ①個人が最も重要である

この信条は宗教的かつ民主的な教えである。宗教は人間は神のイメージに似させて創造されたとし、それゆえ人間の尊厳を強調する。また民主主義は個人の価値を強調し、社会の目的は個人の能力の発達にあるとする。

#### ②社会改良は教育を通して達成されるべきである

民主社会において社会の発展は市民の行動を通して達成されるべきである。社会の発展は人々の質の向上に依るところが大きい。そして、人間の向上は教育によってのみ達成が可能である。

#### ③教育は経済への関心から始まるべきである

人々は、まず第一に経済的欲求に関心がある。従って教育の目的は、人々の究極の関心に応えるものでなければならない。さらに経済の問題は人間にとって最も抑圧的なものであるので、経済的改良が最も喫緊の課題となる。

#### ④教育は集団の行動を通して行われるべきである

人間は社会的存在であるので、集団行動は当然のものである。人々は集団に組織化されるだけでなく、人々の抱える問題は集団の課題であることが多い。したがって効果的な成人教育プログラムは社会における集団の組織化に適したものでなければならない。さらに、現代社会に

において集団行動は不可欠である。組織がなければビジネスや市民生活の結果を出すことは不可能である。

⑤効果的な社会改良は社会的経済的組織の根本的な変革を引き起こす

大きな変革は時にはあまり人気がないものであるかもしれないが、真の改良は大きな変革を必要とすることを認めなければならない。

⑥運動の究極の目的はコミュニティの全ての人の満ち足りた生活である

経済的協同は最初の一步ではあるが、運動の究極の目的はそこにあるのではなく、全ての人がその能力を最大限に開発することにある。

## (2) スタディ・クラブ（学習サークル）による学び

上記の③の教育方法として、アンティゴニッシュ運動ではスタディ・クラブによる学びが最も特徴的である。アーヴィンは、「アンティゴニッシュ運動の心髄は、スタディ・サークルであり、そこでは6～8名の人々が共通の課題を理解し、行動を起こすための計画を作る」<sup>21</sup>とする。アーヴィンは、スタディ・クラブによる学習方法は、後にレヴィンが提唱したアクション・リサーチに他ならないと述べている<sup>22</sup>。

## (3) 教育資料の活用と図書室、視聴覚ライブラリー

上述のスタディ・クラブにおいては、図書やリーフレット等の教育資料を用いて学習活動が展開される。コリーン・キャメロン氏によれば、彼女の母親はスタディ・クラブで用いる教育資料の作成に携わっていたという。「当時、教区の神父や実地指導員の男性が実際の指導にあたり、女性は舞台裏の教材作成を担っていた」<sup>23</sup>のである。

図書室、視聴覚ライブラリーが学習活動に果たす役割の大きさは想像に難くない。佐々木によれば、「社会教育部（ママ）が図書室を設けたのは、1943年カーネギー財団から寄付された1,500ドルを基金としてであった。それ以来図書の充実を重ね、1957年現在、協同組合に関する書籍が8千冊以上備えられている」<sup>24</sup>。その後も図書室は発展し、今日ではコーディ・インターナショナル・インスティテュート附属のマリー・ミカエル図書館<sup>25</sup>に協同組合に関する書籍及びコミュニティ開発や発展途上国の開発教育に関する書籍12,000冊、ビデオやデジタル資料800以上を有する規模となっている。

## (4) ラジオ放送による運動の広がり—人民の学校（People's School）—

アンティゴニッシュ運動の普及にラジオが果たした役割も大きい。ラジオ放送による教育普及は1944年に始まったが、「聖フランシス・ザビエル大学の同窓会が、教育放送局 CFJX を所有しているので、これを通じてラジオによる労働教育を開設したのがそもそもの始まりである」<sup>26</sup>という。これは、「人民の学校（People's School）と呼ばれ、コーディーの言葉を借りれば、「労働者に所属労働組合の仕事に積極的に参加するよう徹底的に教育することである。（なぜなら）不幸な事は、労働組合の定期例会に出席するのはあまりにも少数の組合員だけであるということである」<sup>27</sup>。すなわち、アンティゴニッシュ運動では、ラジオ放送の内容が一般的な教育よりも労働組合教育に力点を置いていたことがうかがえる。

## 3. アンティゴニッシュ運動の継承

コーディは生前、StFXの大学拡張部によるアンティゴニッシュ運動の教育とコミュニティ開発

の方法が世界中のコミュニティに広がることを心に描いていた。彼の生前にそれが実現することはなかった、1959年、その遺志を実現すべく、StFXのキャンパス内にコーディ・インターナショナル・インスティテュート（Coady International Institute）が創設された。インスティテュートでは、毎年、多くの発展途上国の学生を受け入れ、コミュニティ開発についてアクション・リサーチの手法による学習を展開している。インスティテュートのウェブサイトでは、その特徴について次のように述べている。

世界的に有名な Coady International Institute は StFX の建学の精神が最もわかりやすく表現されたものであり、社会への関心と地球規模の社会参加を目標としています。本インスティテュートでは、1959年の創設以来、世界中から地域開発の専門家たちが学んでいます。私たちはコミュニティに根ざしたユニークなアプローチを通して、市民のリーダーが地球規模のチャレンジを行い、機会を生かすことができるよう支援しています。今日までに、数千人もの卒業生やパートナーが海外130ヶ国で活躍しています<sup>28</sup>。

とはいえ、近隣地域の開発と地域住民の学習というアンティゴニッシュの精神が変貌してしまっただけではない。地域に根ざす学習は StFX の大学拡張部で引き続き展開され、さらに StFX の成人教育学科において成人教育学の視点から、海外と地域におけるコミュニティ開発と成人教育の理論と実践の大学院レベルの教育が展開されている。なお、コーディのいとこの孫である Maureen J. Coady 氏は、現在、StFX の成人教育科長を務め、コーディの精神を継承し、社会的公正を視野に入れた成人教育学の構築に力を注いでいる。



St. Francis Xavier University, Antigonish



Coady International Institute, Antigonish



写真左：Colleen Cameron 氏 写真右：Maureen J. Coady 氏

## 終わりに

最後に、アンディゴニッシュ運動の特徴をソーシャル・ペダゴジーの視点から整理してみよう。下に示す左側がアンディゴニッシュ運動の特徴、右側がソーシャル・ペダゴジーの視点からの解釈である。

- ① 貧困などの地域課題の解決 → Community Development, Social Work
- ② 地域経済再生のための協同組合運動 → Community Development
- ③ 地域課題解決のための住民の学習とエンパワメント → adult education
- ④ 運動を担うリーダーの養成 → adult education
- ⑤ カリスマ的指導者の存在 → adult education, popular education
- ⑥ 大学拡張部の協力 → adult education

上記右側の下線をひいた部分がソーシャル・ペダゴジーの特徴とされる場所である。アンティゴニッシュ運動は、ソーシャル・ペダゴジーと同様、コミュニティ開発 (Community Development)、社会事業 (Social Work)、成人教育 (adult education) の3つの側面を持つ運動で

あることがわかる。今後、スタディ・クラブの分析などさらに深めて、ソーシャル・ペダゴジーとの関連をさらに明らかにしていきたい。

アンティゴニッシュ運動の底流には、デンマークのフォルケホイスコーレ、イギリスのWEA、アメリカのショトカーやウィスコンシン大学の大学拡張など、19世紀末から20世紀初頭にかけての社会的福音に影響を受けた成人教育運動のうねりが脈打っている。運動の実際の担い手であったモーゼス・コーディは、1939年に *Masters of Their Own Destiny* を著し、地域住民が自らの人生の師であることなど、彼の成人教育思想とアンティゴニッシュ運動について詳しく述べている。筆者は2016年の秋、アンティゴニッシュの地を訪れ、コーディのいとこの孫であり StFX の成人教育学科長である Maureen J. Coady 氏、コーディ・インターナショナル・インスティテュートの Colleen Cameron 氏、StFX の成人教育学科教授の Leona M. English 氏、同准教授の Carole Roy 氏、同助今日の Zulfiya Tursunova 氏、コーディ・インターナショナル・インスティテュート附属図書館の Catherine Irving 氏など、多くの方にお会いし話を伺うことができた。今回伺った話の整理とコーディの著書の分析が、筆者の課題として残されている。近いうちに稿を改めて、世に問いたい。

謝辞：まとめでも述べた通り、筆者は2016年秋にアンティゴニッシュを訪れ、StFX の成人教育学科の Maureen J. Coady 氏、Leona M. English 氏、Carole Roy 氏、Zulfiya Tursunovas 氏、コーディ・インターナショナル・インスティテュートの Colleen Cameron 氏、同附属図書館の Catherine Irving 氏等に面会し、多くの情報と資料の提供を受けた。ここに記して感謝申し上げたい。

#### 注

- 1 藤村好美「アメリカにおける Social Pedagogy の専門職養成について—アリゾナ州立大学大学院調査報告—」松田武雄編『社会教育と福祉とコミュニティ支援の比較研究』2016年8月、1-10頁。
- 2 Smith, M. K. (2009) 'Social pedagogy' in the encyclopaedia of informal education, [<http://infed.org/mobi/social-pedagogy-the-development-of-theory-and-practice/>], Retrieved October 1, 2016].
- 3 Paul Stephens, *Social Pedagogy: Heart and Head*, BoD - Books on Demand, 2013.
- 4 Daniel Schugurensky, "A Social Worker, a Community Development Worker and an Adult Educator Walk into a Bar: On Strange Bedfellows and Social Pedagogy," *Postcolonial Directions in Education*, 2014.
- 5 佐々木徹郎「ノバ・スコシアにおける協同組合運動」『社会学研究』第19号、1960年他。
- 6 Catherine Irving, "Antigonish Movement", David Coghlan & Mary Brydon-Miller, *The SAGE Encyclopedia of Action Research*, SAGE Publications, Thousand Oaks, 2014.
- 7 佐々木徹郎『コミュニティ・デベロップメントの研究』お茶の水書房、1982年、3頁。
- 8 Catherine Irving, *Op. Cit.*
- 9 聖フランシス・ザビエル大学の大学拡張部 (University Extension) について、佐々木は、「設立当初、この大学は、司祭候補者の要請を主としていたが、それとともに、地方住民の一般的高等教育も担当していた。ともすれば、田舎の大学に終わってしまうような小さな大学が全世界の注目を集めるようになったのは、1930年に、農漁民を啓蒙し、協同組合組織をつくりあげて、その生活向上をはかるという目的をもった、社会教育部 (University Extension) が創設されたことによってである」と述べている (佐々木徹郎、前掲書、5頁)。
- 10 <http://coadyextension.stfx.ca/people/leaders/michael-gillis/>, Retrieved October 1, 2016.
- 11 トンプキンスと大学拡張について、佐々木は、「トンプキンス (J.J. Tompkins) は、1912年、大英帝国大学会議に参加したが、それ以来数回渡英し、イギリスの労働者教育協会 (Worker's Educational Association) の活動や、アイルランドの大学の成人教育活動に刺激された。トンプキンスは大学の果すべき使命、成人教育の必要等に思いを致し、大学を一般人の成人教育の機関として開放することを

考えた。(略) トンプキンズは、イギリス、アイルランドで得た経験にもとづいて、大学が成人教育に従事しているヨーロッパの実情を報告し、さらに、これはケベック (Quebec) においても行われており、ノバ・スコシヤ (ママ) がこの点において、特に欠けていることを指摘した。今や人々が教育的進歩を心から望んでいる。これに指導力を結集しなければならぬ。民主的政府、民主的社会制度は、人民に根ざすものであって、人民から活力を得なければならない。制度が人民から離れ、少数の専制の道具と化することを避ける道は人民の教育である。トンプキンズはこう考えてこのような成人教育運動の最も適切な指導者として、若い、社会的使命感に燃えた司祭を待望したのであった」と述べている (佐々木徹郎、前掲書、6頁)。

12 <http://coadyextension.stfx.ca/people/leaders/jimmy-tomkins/>, Retrieved October 1, 2016.

13 コーディの略歴については、コーディ・インターナショナル・インスティテュートの附属図書館のウェブサイトを参照。 [<http://coadyextension.stfx.ca/people/leaders/moses-coady/>, Retrieved: October 1, 2016]

14 同上

15 同上

16 University Extension を、本稿では大学拡張部と称す。

17 佐々木徹郎、前掲書、10頁。

18 同上、11頁。

19 コーディ・インターナショナル・インスティテュートの付属図書館のウェブサイトより [<http://coadyextension.stfx.ca/people/leaders/moses-coady/>, Retrieved: October 1, 2016]

20 <http://coady.stfx.ca/coady/movement/>, Retrieved October 1, 2016.

21 Catherine Irving, op. cit.

22 *Ibid.*

23 Collen Cameron 氏からの聴き取り (2016年9月、アンティゴニッシュにて)

24 佐々木徹郎、前掲書、34頁。

25 今日、コーディ・インターナショナル・インスティテュートの図書館は StFX 拡張部とコーディ・インターナショナル・インスティテュートに多大な貢献をされた Sister Marie Michael MacKinnon の名を冠し、Marie Michael Library という名称で呼ばれている。

26 同上、35頁。

27 同上、35頁。

28 <http://www.stfx.ca/coady/>, retrieved October 2, 2016.